■本阿弥光悦　　**書画，漆芸，陶芸に通じ，家康から与えられた土地に"芸術家村"を開いて，新時代の芸術をリード。**
ほんあみこうえつ
・・・・・・1558＝　　**_京都で代々刀剣の鑑定・研磨を本業とする富裕な上層町衆で，法華信徒の本阿弥家の分家に生まれる。父光二は多賀宗春の次男で，本阿弥宗家７代光心の婿養子となる。母妙秀は光心の長女。**
大友府内開港1559＝ 1歳：この年，本阿弥本家七代光心が死去。
桶狭間の戦・1560＝ 2歳：
父も名をなしていたが，母もまた子育てにすぐれた人であった。

岐阜楽市楽座1567**＝ 9歳：**
織田信長入京1568＝10歳：

比叡山焼討・1571＝13歳：この年，角倉素庵が誕生。

室町幕府滅亡1573＝15歳：

安土城築城・1576**＝18歳：**

この頃，結婚したが，
ﾊﾞﾘﾆｬｰﾉ謁見 1581＝23歳：この年，本阿弥本家八代光利が死去。
本能寺の変・1582＝24歳：
賤ヶ岳の戦・1583＝25歳：この年，本家十代光室が誕生。北陸へ下るか。娘の妙経が死去して後は子は無かった。
長久手の戦・1584＝26歳：この年に金沢から富田治部左衛門景政に宛てたと見られる手紙には，まだ光悦風の書は現れていない。
豊臣秀吉関白1585**＝27歳：**

・・・・・・1589＝31歳：＊
秀吉全国統一1590＝32歳：
この頃，**_入木道の書法伝授を受けるなど，家職の刀剣の浄拭は勿論，書・陶芸・蒔絵など芸を身につけるとともに，古典や茶道に通じ，新時代の芸術の指導者的存在となって行く。**
方広寺大仏殿1593＝35歳：＊
ﾙｿﾝ島通交・ 1594**＝36歳：**この年，父光二が本法寺日通から法華十界の本尊を受ける。この前後，**＊関白豊臣秀次から硯の制作を依頼され，その分野で知られていたことが分かり，秀次の侍医あて手紙には光悦様式の萌芽が見られ，**
関白秀次事件1595＝37歳：以降多数見られる手紙の端緒となる**_光悦様式への画期となり，**
慶長の役・・1597＝39歳：この年，勅版活字本「錦繍段」が刊行される。
豊臣秀吉没・1598＝40歳：＊
前田利家没・1599＝41歳：この頃から，徳川家康が活字を用いて諸書を板行し始める(いわゆる駿河版)。＊
関ヶ原の戦・1600＝42歳：＊。この頃，**_のちの嵯峨本の原型となる「月の歌和歌巻」成立か。**
朱印船制始・1601＝43歳：養嗣子光瑳の子光甫が誕生。妻妙徳が死去，以後，母と暮らし，この頃**_確立示す「鹿下絵和歌巻」成立か。**
東本願寺創建1602＝44歳：八十嶋道除筆木版下絵「雑筆往来」。この年，京都方広寺の大仏殿が焼失し，その件についての加賀藩臣長九郎左衛門連竜宛の手紙。養嗣子光瑳の子日允が誕生。**_光悦様式が完全に確立するに至る。**
阿国歌舞伎始1603**＝45歳：＊一族の重鎮だった父光二が死去し，別家ながら，中心的な立場となり，**
糸割符法始・1604＝46歳：叔父本阿弥光意が死去。**_この頃から，**
徳川家康隠居1605＝47歳：高三隆達自筆の奥書を持つ隆達節小歌，また八十嶋道除筆木版下絵「琵琶引井序」がある。このころ「蓮下絵和歌巻」(前半)を書くか。
江戸城完成・1606＝48歳：光悦署名・角印とを持つ色紙が十数枚現存。**_本阿弥光悦書・俵屋宗達下絵の「和歌色紙」完成する。**
家康駿府退隠1607＝49歳：この年，角倉了以が富士川の舟路を開く。**_了以の子素庵が始めた嵯峨本出版に，**
・・・・・・1608＝50歳：嵯峨本「伊勢物語」の中院通勝の刊行識語が書かれる。**_版下の書を提供するなどして協力，**
島津琉球支配1609＝51歳：嵯峨本「伊勢物語聞書」の中院通勝の刊行識語が書かれる。
琉球使始・・1610＝52歳：中院通勝が死去。
山田長政渡航1611＝53歳：この年，加賀国金沢に下向し，越年するか。**_この頃までが最も魅力的な書の時代となった。**
ｷﾘｽﾄ教禁止・1612**＝54歳：**金沢に滞在，今枝内記宛藩主前田利長の病状についての手紙はこの時のものか。茶道を学んだ古田織部下向についての手紙がある。**_初めて中風を発症，一旦は回復するものの，**
大坂冬の陣・1614＝56歳：この年，角倉了以が死去。
大坂夏の陣・1615＝57歳：この年，古田織部が自害。**＊徳川家康より洛北の鷹ヶ峰に敷地を与えられ，一族や工匠とともに住み，法華信仰をもとにした生活で，いわゆる光悦村をつくった。**
徳川家康没・1616＝58歳：家康が死去。この年，姉妹で尾形道柏の妻となっていた法秀が死去。
吉原遊郭始・1617＝59歳：この年，姉で本阿弥光徳の妻となっていた妙光が死去。後陽成天皇が崩御。
・・・・・・1618＝60歳：母妙秀が死去。この頃，後妻を迎え，以後，子が6人誕生。
菱垣廻船始・1619＝61歳：この年，角倉素庵が嵯峨に引退して学究生活に入る。従兄弟光徳が死去。**_京都妙蓮寺の日源上人のために，母の忌日にあたって，「立正安国論」を書き，父の忌日には，「始聞仏乗儀」を書き，病気のハンディを克服した力強い書を示す。**
利根川付替始1621**＝63歳：**娘の妙仁が死去。
徳川家光将軍1623＝65歳：息子の徳善が死去。**＊以後，たびたび中風を患ううち，能書ぶりが衰えて行く。**
寛永寺創建・1625＝67歳：本阿弥光室が江戸城で客死した急報を受けて，江戸に下向し，将軍家光に謁し，自筆色紙を献上。帰路下総中山法華経寺に詣でる。
人身売買禁止1626＝68歳：孫日允が剃髪して本満寺知見に師事する。亡父母追善のため，甲斐国本遠寺の額を書く。末子となる娘妙潤が誕生。孫光甫に子光伝が誕生。
紫衣勅許無効1627＝69歳：元旦の試筆がある。従兄弟光淳が死去。
寛永禁書令・1630**＝72歳：**板倉勝重の七回忌にあたり，手水鉢の銘を書く。後水尾院の勘返のある一条兼逞の手紙はこの年のものか。この年に書いたという三十六歌仙の色紙がある。
徳川秀忠没・1632＝74歳：前将軍秀忠が死去。角倉素庵が死去。＊
鎖国令始・・1633＝75歳：千宗旦屋敷を売るについての手紙の中に光悦の名が見える。
鎖国令Ⅱ・・1634＝76歳：将軍徳川家光上洛中の日付を持つ手紙。孫光甫に男子光山が誕生(のち加賀本阿弥家の祖)。
_晩年には中風を患っていたらしいが，小者一人飯たき一人の質素な暮らし方を続け，孫のように若い灰屋紹益らとの交流を楽しみながら，
島原の乱始・1637＝79歳：**_没した。**

増田孝「本阿弥光悦 人と芸術」，正木篤三「本阿弥行状記と光悦」，「人づくり風土記(京都)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，